

平成 26年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600197	事業の開始年月日	平成24年3月1日
		指定年月日	平成24年3月1日
法人名	株式会社 日本アメニティライフ協会		
事業所名	花物語 あさお		
所在地	(〒215-0023) 神奈川県川崎市麻生区片平7-1-1		
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	25名
		通い定員	15名
		宿泊定員	9名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	名
		エント数	エント
自己評価作成日	平成26年 10月15日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月17日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>花物語 あさおは、尻手黒川街道に面しており、小田急線柿生駅より『稲城駅・若葉台駅行』バスで5分、徒歩1分。又は、小田急多摩線五月台駅から徒歩15分程のところの、閑静な住宅街にあり、花物語の名前の通り、お花に囲まれ心穏やかに生活しております。</p> <p>平成24年3月1日開設。認知症対応型共同生活介護と、小規模多機能型居宅介護の複合施設です。</p> <p>平成26年7月1日より愛称を「花織あさお」とし、利用者様と職員が縦糸・横糸を織紡ぐ一体感を持つよう命名しました。</p> <p>住み慣れた地域で出来る限り在宅生活を継続できるよう、お一人お一人の“個”を尊重し、その人らしく、当たり前のお過ごしいただけるよう、職員一丸で取り組んでいます。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	神奈川県横浜市本町2丁目10番 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年11月27日	評価機関 評価決定日	平成27年2月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

当事業所は神奈川県内で数多くの介護事業を営む、日本アメニティライフ協会系列の事業所である。鉄骨造り3階建ての1階が小規模多機能型居宅介護事業所になっており、2階と3階にグループホームが併設されている。事業所は小田急多摩線・五月台駅から閑静な住宅街を通り、徒歩15分ほどの所にある。建物は県道137号線に面しているが、前面は駐車場やベンチを置いた広場になっており、利用者の交通安全は確保されている。玄関および共用フロア、宿泊室は段差の無いバリアフリー仕様であり、車椅子での移動や歩行に支障がないよう配慮されている。理念にある「安全を第一」をモットーに、事業所内の整理整頓がよくされている。

事業所周辺は住宅街であるが、近くには小川や散歩道があり、自然豊かな環境が利用者にも好まれている。開所して2年余となり、通い・訪問・宿泊の各サービスの実践に管理者はじめ職員が誠意を込めて当たっている。

【詳細でわかりやすい利用者個々の記録】

利用者個々の記録が分かりやすく、詳細に記録されている。個人ファイルは、基本情報やアセスメント、医療情報、モニタリング、経過記録など13項目の見出しをつけて、知りたい内容がすぐに得られるよう整理されている。

【積極的な医療的支援】

管理者は病院勤務経験があり、医療依存度の高い利用者の受け入れに積極的である。退院後すぐに医療行為が必要な方の受け入れや、特養、老健、グループホームへの移行などを支援している。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	花物語 あさお
ユニット名	1F 小規模多機能居宅介護

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に事業所理念を掲示しています。ケアの中で疑問点や不安を感じた時など、常に「理念」に立ち返りカンファレンスやフロア会議を通して課題抽出・解決をしています。また、参加できない職員へも議事録や申し送りを通して周知・共有しています。	開設時に現管理者が職員と共に作成した理念を館内に掲示して周知に努めている。更に今年度は職員が安心して働ける職場作りを目指すと共に、自らのスキルとケアの質を上げ、利用者満足度の向上に努めるとのスローガンを会議や申し送り等で共有し、業務に反映させている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のイベントに参加しているほか、町内会の会館を使って行事を開催しています。今年から地域の美容室と連携し勉強会を実施しました。	所在地の片平町内会に加入しており、今後は隣接する白鳥町内会とも交流すべく調整中である。事業所の行事も町内会を通じて広報し、地域との交流に役立っている。ボランティアの演芸や傾聴を楽しんでいる。近隣小学校との交流についても具体的な方法を検討し、実践に向かっている。「こども110番」の任を受け、地域に協力している	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症や介護を必要とする人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の見学会や説明会を開催し、近隣の方々を招いて施設の説明と同時に、認知症や介護保険についても説明をしています。7月から地域の美容室と連携し「介護保険」「認知症」の勉強会を開催しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では状況報告を行った後、参加者が全員意見を出せるよう取り組んでいます。その中で、イベントの相談や地域の行事などの情報交換を行っています。	会議は年6回、併設のグループホームとの合同開催を基本としている。利用者・家族、地域包括支援センター職員、民生委員が出席している。事業所の現状や活動、事故事例等の報告をして、意見をもらい業務に反映させている。訪問サービスの実施状況や連絡帳の記載内容が分かり難いとの意見があり、写真にコメントを記載して視覚的に分かりやすく改良した事例があった。今後はDVDに写真を入れて送る方法などを検討している。	

5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>麻生区近隣の地域包括支援センターや、麻生区の高齢者支援課・保健福祉センター保護課へ定期的に訪問し、運営状況の報告や相談を行っています。今年度は4ケースのサービス担当者会議を定期的に主催し参加いただいております。</p>	<p>高齢者や生活保護受給者に係る介護支援について、行政の担当者と常に連絡を取り業務に生かしている。区内の小規模多機能型事業所との月1回の会合への参加や川崎市北部地域連絡会の事務局を担当するなど互いに連携し、交換研修なども行っている。</p>	
---	---	---	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて『身体拘束ゼロの手引き』をもとに、事例検討を含めて、職員への指導を行っています。現在身体拘束を行っている利用者様はいらっしゃいませんが、必要に応じて家族を含め話し合いを行っています。また、施設玄関については防犯上施錠されていますが、利用者様のご希望に応じて職員と共に外出していただいています。	研修は併設グループホーム職員と合同で行い知識を共有している。身体拘束はしない方針を明言している。新人職員は利用者と丸1日同席し、利用者の立場を経験することで、拘束についても意識を高められている。転倒のリスクがある方でもベッド柵は使用せず、畳の部屋で布団を利用してもらうなどの配慮もされている。全館共用の玄関は防犯上及び利用者の安全を考慮し施錠している。利用者の出入りには職員がその都度対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議や研修の中で、事例検討を含め、どのような場合が虐待になりうるケースなのかを話し合い、理解を深めています。ケースによっては行政とも連携し、自宅での虐待の防止・早期発見に努めています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りのない独居の方や、認知症ケアを行う上で、必要な知識として、職員間でも話し合いの場を持っています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、話し合いを多く持ち、お互い納得の上でご利用いただいています。特に、「通い・泊り・訪問」のサービス内容については、お一人おひとりにあった内容を丁寧に説明し、可能な限り要望にお応えしています。			

10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時の面談や、随時の電話連絡により、家族の意見を取り入れるよう努めています。日々の利用者との関わりや家族との相談の中で、外出や趣味嗜好のことなどできる限りお一人おひとりにあった取り組みを提供しています。 また、比較的長期間の泊りサービスをご利用されている方は「帰りたい」という要望が強いため、ご家族とも綿密に協議し、短時間での帰宅や面会の機会を増やしてもらうよう支援しています。</p>	<p>基本的に公平なサービスの提供を心掛け、利用開始時に小規模多機能型居宅介護について説明し理解と同意を得ている。長期宿泊の方で帰宅を強く望む場合は、家族に状況を伝え、週末の短時間を自宅で過ごす支援をしている。「お刺身が食べたい」との要望を受け、「お刺身バイキング」を実施した事例がある。訪問サービスで家事援助の要望が多いので、今後、強化を検討中である。</p>	
----	---	--	--	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社全体の運営会議やスタッフ会議を通じて意見や提案を検討し、よりよりにできるような努めています。日々のケアやカンファの中で、意見の検討を行いながら、随時取り入れています。職員の意見を随時反映できるように「スタッフ連絡ノート」を作成し意見交換しています。	日常業務の中で職員からの意見や提案、要望が自由に出せるよう「スタッフ連絡ノート」が用意されており、注意点や連絡事項も記述されて全員が共有し、後の業務に反映していく体制が出来ている。毎月のフロア会議でも意見等が出される。レクレーションや家族への報告の担当者を決めたい、との提案を採用し実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	契約更新時に個人面談を行い、就業時間の増減や、契約社員や社会保険の加入についての希望等、契約条件などを考慮し、雇い入れを取り交わしています。意欲や力（知力・体力・精神力）のある人材には、リーダーやその上を目指してもらうよう伝えています。無資格者には、資格取得支援制度などの奨学金制度を活用し取得している人もいます。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修の定期的な実施や外部研修への参加・資格取得を推奨するなど、個々のスキルの向上を働きかけています。また、採用時の新入職員導入研修では介護の基礎知識・マナーを含めた座学を2日間に渡り受講しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市町村等からの研修等や他施設見学に参加する事により、同業者との情報交換やネットワークを構築するよう努めている。また、川崎市小規模多機能事業者連絡協議会にも入会し、他の施設での取り組みやケース検討などを通して交流を深めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、家族や本人に要望や不安ごとを聞き、利用開始時にはアセスメントをしっかりととり、会話の機会を多く持つことで、信頼関係を築けるように努め、どんな事でも話していただけるような関係性を持つようにしています。ご本人からの要望に対しては傾聴し、ケアに反映させるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人ご家族が困っている事や不安な材料や要望を聞き取るよう常に連絡を取り合い、アセスメントや介護支援計画書に反映させ、安心して利用していただけるように努めています。また、サービス利用上、ご本人の意見と相違する場合は「安全・安心」を基準としてお互いが納得のいくよう相談を重ね、利用支援をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	既存のサービスから移行されるケースの場合、混乱が予測されるため、以前のサービス事業所やご家族からの情報提供をもとに、スムーズに移行できるよう支援しています。また、初めて介護サービスを利用される方に対しては、「何が困っているのか？なにができるのか？」を繰り返しアセスメントしながら最適なサービスを組み立てています。場合によっては、福祉用具などの他のサービスが必要な方には、迅速な紹介・対応を心がけています。		

18	<p>○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご本人の意思を第一に尊重し、本人のADLや意欲に沿った方法で、職員や他利用者と共に行うことで完成し、仕事ができる喜びを分かち合い、他者と協力しながら生活できるように努めています。</p>		
19	<p>○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>常に家族の意見も反映できるようにし、ご本人の情報をご家族とも共有し、一方通行にならないように心がけています。また、施設にまかせっきりにならないよう自宅での関わり方などアドバイスを提供しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	体が思うように動けなくなって、なかなか外出の機会が持てない方が多いため、かかりつけの病院や美容室への付き添いを行っています。また、通いや泊りで利用中の時にも、古くからの友人や親類が訪ねてきてくださっています。	かかりつけ医への通院介助や馴染みの場所への同行支援、連泊している利用者への訪問者があつた時は接待し、帰りは駅まで送るなど関係継続を支援している。「生田緑地」遊園地は利用者たちには馴染みの場所なので、望みの方と出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	誕生日会や季節の行事、夏祭り等を開催し利用者同士の親睦を深めています。また、食事の席の配置も、気心が知れた関係作りを心がけています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した場合でも家族を通じて、他事業者への情報提供等、支援を行っています。入院の際のお見舞いや手紙の発信などにより良い関係性が継続できるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々のケアの中でアセスメントを行い、申し送りやカンファにて、意向や希望の把握を随時行っています。ご本人の要望にあわせ、食事内容を変更したり買い物のお手伝いをさせていただくなど、個人の自立性を大切にしたケアを行っています。	利用者本人の意向を最優先し、その把握や確認を注意深く行っている。利用者の共通の話題から、声かけをして関係作りに努めることで、意見や要望を自然に引き出している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の担当ケアマネジャー及び、家族や本人から情報を得て、今までやってきた家事や生け花等の趣味等が継続できるよう、利用に至る敬意や生活環境なども職員間で共有し、今までの生活習慣が継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する能力の現状把握に努めている	日々のアセスメント以外に、ケアプランの更新時の際にもモニタリングや評価を行っており、職員一人ひとりが、利用者の現状をしっかりと把握し、必要な支援について個別ケアに努め、話し合い対応しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議や日々のケアの中において、モニタリングやアセスメントを行い、本人や家族の意向に近づいた介護計画にする為、ご本人との会話を大切にすると共に、送迎時などにご家族様からの情報を多く得て、介護計画書を作成、職員間で共有を行っています。	利用者の個別ファイルに個々の情報が詳細に記録されており、初期計画の作成や見直しに有効に活用されている。サービス担当者会議には利用者及び家族、看護師、メディカルソーシャルワーカーと担当職員の参加があり、利用者の状態を確認し対応を協議している。モニタリングは毎月、カンファレンスは3ヵ月ごと、計画の見直しは6ヶ月ごとに行うことを基本としている。	

27	<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個人記録に時間ごとのご様子や、利用者の言葉や状態を記録し、どういう思いを抱いているのかをリサーチし、日々の細かな情報や気づきを記録に残し、申し送りやカンファにて情報の共有及び、介護計画書への反映・見直しを行っています。</p>		
----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	常に現状必要なサービス、今後必要になるサービスは何であるかを考え、本人と家族の関係性（今までの生活暦等）を考慮しながら、かかりつけ医の受診の支援や親類との関係の調整など、必要なサービスにつなげるよう取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	天気の良いときには近隣を散策し、季節の花々、農作物を眺め地域の方々との挨拶も心がけています。また、近くに農産物直売所がある為、花や野菜を買い物に行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族が対応しているが、結果報告やかかりつけ医への直接連絡など連携に努めている	一人ひとりのかかりつけ医が異なるため、受診後の医師からの指示や服薬情報など家族と共有しています。必要に応じて受診同行、MSWとの情報共有も行っています。	長期宿泊の利用者は事業所の協力医による訪問診察を受けている。通常はその人のかかりつけの医師の受診を支援している。通院は職員対応、家族対応のいずれでも診察結果を連絡帳で交換し、個人ファイルに保管して共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の申し送りやケアの中で、相談・助言をし個人記録に記入など、情報の共有を行い、適切な受診や看護につなげています。また、看護師による介護職員への指導も行っており、適切な情報の伝達が行えるよう取り組んでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、双方で看護サマリーを受け渡し、情報共有に努めています。また、定期的に病院に訪問しMSW等の職員との関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「高齢者に起こりうるリスク」について説明し同意を得ています。重度化や終末期の段階を見極め、必要に応じて主治医や家族、関係機関とも連携し、入院や在宅での看取りの方向性を支援しています。	高齢者に発症しやすい種々のリスクを事前に家族に説明して、心身の急変時や重度化した場合の事業所の対応についての指針を提示して同意をもらっている。職員は利用者の状況に応じて適切な対応ができるよう、常にミーティングの場で話し合っている。	医療に関しての対応方法を指針やマニュアル等で勉強しています。今後は他事業所の事例検討等の研修実施など、さらに体制を整えていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入社時の研修や、社内研修で急変対応や事故対応の研修を行い、発見時の対応や報告、状況等事例や対策をたて、職員全員が対応できるように努めている。また、不安がある職員には、個別に対応の仕方を伝えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	川崎市麻生消防署と連携し、夜間想定防災訓練を実施しています。また、災害時備蓄品も備えています。	年2回の避難訓練を実施している。本年は東京理科大の協力を得て「図上訓練」を実施した。効率の良い避難経路等が分かり易いと好評だった。今後は町内会の防災訓練にも参加し、地域との連携を図ることにしている。災害時に備えた3日分の備蓄品が倉庫に保管されており、定期的に入れ替えを行っている。	昨年度からの懸案事項であった地域ぐるみの防災訓練は実施に向けて検討中です。所在地の町内会と隣接の町内会とも連携した大掛かりな訓練を検討していますので、実現に向かって引き続き努力されるよう期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であるという事を意識し、常に尊敬と敬意の念を持って接しています。たとえ意思疎通が困難になったとしても、その方の生活歴や趣味等をアセスメントし、カンファレンスにて討議しています。安心して生活できるよう声掛けや介助の方法を工夫しています。	利用者への言葉遣いや接遇に重点をおいて職員指導を行っている。利用者の自尊心やプライバシーを傷つける事が無いよう、職員相互が常に声を掛け合って注意している。理念の「その人らしさを優先」することを意識し、職員がセルフチェックするなどの工夫も実施されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	危険な行為や言葉、他の方々に不快感や不安な状態、健康状態に支障にならない限り、自己決定できる支援を心がけています。購入品の希望があった場合は、一緒に買い物へ行き、自分で選ぶように働きかけています。又、普段の着替えの洋服や飲み物も、自分で選べるよう声掛けを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や更衣、配膳の手伝い等、可能な限りご本人の意向を優先しています。働きたいのか、散歩をしたいのか、又は、のんびりと過ごしたいのか、聞いてから、行動を共にしています。通いの時間帯も、当日の体調や気分を考慮し可能な限り対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の意思や希望を尊重し、ほとんどの利用者様が自分で衣服を選んでいます。季節やTPOに合った身だしなみができるよう職員からの声掛けも行い支援しています。また、通いで利用者様には「素敵なカーデガンですね」などの声掛けを行い、身だしなみに対する意識が薄れないよう心がけています。		

40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりの好みやできる力を把握し、利用者様に確認しながら、調理をする人、片づけをする人など役割を決め、職員と一緒に、準備や調理を行っています。時々手作りのおやつと一緒に作って楽しんでもいます。	糖尿病などの療養食は3食とも専門業者からの弁当で提供している。現在2名の方が利用している。通常は食材とレシピを取り寄せ、職員が調理して提供する。週間予定献立表が掲示されている。食事介助を要する利用者がいないので、職員は見守り支援に努めている。管理者が調理した「お刺身バイキング」を実施したところ好評だった事例がある。利用者をさりげなくお手伝いに誘導するなどして、食事を楽しむ支援を行っている。
----	----	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士によるバランスの摂れたメニューにより調理を行っています。個人の状態に合わせたご飯の量を盛り付けたり、適切な飲水量が確保できるように、声掛け等、支援を行っています。水分摂取量や食事摂取量は記録に残し、一日の総水分摂取量に応じて、ご本人の嗜好に合わせた飲み物などを提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個別に応じたケアを実践しています。毎食後、口腔ケアの介助が必要な方には、声掛けや見守りや、必要に応じて介助を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご本人の尿意や便意の訴えにより声掛け、誘導を行っています。尿意や便意の訴えの無い方、間に合わない方は、記録により排泄パターンを把握し、時間を見計らって声掛け誘導を行っています。	利用者の殆どは自立排泄が可能であるが、各人の排泄パターンを確認しており、見計らってさりげなく誘導する配慮がされている。排便コントロールは薬に頼らず毎朝の体操など、運動で調整するよう努めている。失禁への対応方法を家族にもパットのサンプルを用いて説明し、外出時での使用などを助言している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの食事量、水分量を把握し、排泄の記録を残す事で、便秘の早期発見と予防に努めています。また、毎日体操を取り入れ、括約筋の低下防止に努めています。		

45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 入浴剤、ゆず湯、菖蒲湯など香りや季節感を味わいながら、癒しの空間作りに努めている。</p>	<p>ご本人の意志を尊重し体の状態も考慮し、気分良く入れるように努めています。また、入浴剤も数種類用意しご本人の好みに合わせて楽しんで頂いています。拒否がある場合はその方に合わせた声掛けや誘導など工夫をしています。入浴ができない時が続くような場合は、足浴や清拭で対応しています。</p>	<p>事業所での入浴は午後や夕方のため、限られた人数の支援となるので、可能な方にはなるべく自宅での入浴をお願いしている。リビングに湯河原温泉の湯で足湯を楽しめる設備があり、いつでも利用できる。入浴は同性介助を基本としている。個浴槽の湯はそのつど替えている。家庭で使っているお気に入りの入浴剤を持参する利用者がいる。入浴が苦手な利用者に対して、畑仕事の後で汚れた手足や汗を流しましょうと、声掛けに工夫して誘導した事例があった。</p>	
----	----	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安心 して気持ちよく眠れるよう支援して いる	各利用者様が、自由に居室やフロアにて 過ごしています。お一人での移動が不可 能な場合は、その時の状態観察を行い、 ご本人に聞いてから、休息の支援を行な っています。夜間安眠して頂けるよう、 日中の活動も考慮し支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理解 しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている	服薬は特に配慮をし、症状の変化や経過 などは主治医へ必ず報告し、連携に努 めています。また、看護師が記載した往診 記録の確認、又は、個人記録に添付して ある薬剤情報を確認しながら、服薬の支 援を行なっています。自宅で服薬管理が 困難な方には、定期的に看護師が訪問し 服薬管理をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ご せるように、一人ひとりの生活歴や 力を活かした役割、嗜好品、楽しみ ごと、気分転換等の支援をしている	誰かの役に立つ事で生活に張り合いを感 じて過ごせるよう支援に努めています。 台所仕事が好きな方には、調理や片付け 等を職員と一緒にこなっており、職員か ら常に感謝の言葉をお伝えしています。 また、天気の良い時は洗濯物やお布団を 干していただいたりします。今年も畑で トマト・茄子を栽培し収穫も楽しみま した。現在、小松菜などの冬野菜を栽 培中です。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支援に 努めている。また、普段は行けない ような場所でも、本人の希望を把握 し、出かけられるように支援してい る	可能な限り外出を支援しています。定期 的に外出イベントを企画し、非日常を楽 しんで頂ける様工夫しています。今秋に は「ミステリーツアー」と題して日帰り 旅行を企画しました。	好天時は、歩いて10分ほどの乗馬クラブ までの散歩コースで楽しんでいる。利用 者個々で歩行速度が異なるので、それぞ れに職員が付き添い安全に注意してい る。職員に余裕があれば車椅子の利用者 を町田市の薬師台公園に日常的に連れて 行く支援もしている。季節感が得られる 外出先を職員が調べ、散歩を楽しんでも らえるよう努めている。	

50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は主にご本人で行っていただいています。認知症で管理ができない方の場合は、事務所で立替え利用料と共に請求しています。		
----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事がある時や、家に帰りたいという訴えがあった時には、家族了解の下、電話ができるように支援を行なっています。また、手紙のやり取りができるよう支援し、大切な人との関わりが続けられるようにしています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共有の空間に、近所で買って来た花や季節に合った飾りつけを施したり、フロアの壁には利用者様の作品や写真を飾り、利用者様とご家族や来訪者との会話にもつながっています。	利用者と共に駐車場広場のフェンスに鉢花を植栽し「花物語事業所」の特徴を表現している。周囲には季節感あふれる花々が飾られ、装飾したベンチや椅子が置かれた共有空間を皆が楽しんでいる。リビングのエアコンは吹き出し口を改良し、風が顔に直接あたらない工夫がされている。加湿器や安全な空間除菌・消臭剤などが利用され、感染症対策に配慮がある。ソファとテーブルをまとめて中央に配置し利用者に疎外感を与えない工夫もされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事やおやつの席も性格などを考慮し配置しています。食後やゆったりと過ごしたい場合は、泊りの居室にご案内したりソファやテレビの見える場所を提供しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお気に入りの写真（アルバム等）や置時計などお持ちいただき、そばに置く事により、自宅に近い感覚で、安心して居心地よく生活できるよう、ご家族と一緒に工夫をする配慮をしています。	宿泊室は洋室と畳部屋が合わせて9室あり、生活上の設備が全て整えられている。長期滞在の場合は利用者が家族写真など、好みの物を持ちこんでいる。各部屋のリネンはリネン交換表で確認し、清潔維持に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所は認知症があってもわかるよう同じ場所にご案内し一人でもできるよう支援しています。また、車いすの方が一人でも移動できるようテーブルやいすの配置を考慮しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 花物語あすお

作成日 平成27年2月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	重度化や終末期に向けた体制が充分にとれていない	重度化や終末期のあり方について地域の関係者と共にチームで取り組む	① 地域PTA会議を通じて包括、住民、医師等とカンファレンスかてまろ ② 府生区小規模多機能連絡会で事例検討、報告会を開始する	① 27年10月までに ② 27年度中旬(10月)までに実施予定
2	35	防災に関し地域を巻き込んだ取り組みができていない	近隣の2所内会と連携し災害時の協力体制が確立できる	① 白鳥町内会防災訓練に参加 ② 片平町内会防災訓練に参加 ③ 葦葉町内会防災訓練に参加する	① 27年9月まで ② 27年10月まで ③ 28年2月まで
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。